

なでしこ通信



令和8年1月10日発行

vol.196

三重県済生会明和病院 なでしこ 〒515-0312 三重県多気郡明和町大字上野435

TEL・FAX : 0596-53-0010 Eメール : nadeshiko@meiwa-saiseikai.jp ※重症心身障害児(者)に特化しているため旧名称を記載しております

新年のご挨拶

みなさまあけましておめでとうございます。旧年中はなでしこの事業に多大なご理解ご協力を賜りありがとうございました。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

この冬も感染症が猛威を振っています。なでしこでは令和4年夏のCOVID-19のクラスター以外には5年以上感染症の流行はなく、ウイルス感染対策はなんとかできていると思っています。ただ、利

用者の方たちの重症化の進行に相反する職員数の減少もあり、潤いのある生活のための十分な活動ができているとは残念ながら言い難い状況です。療養介護や生活介護、障害児入所施設の今後の方向性について厚労省やこども家庭庁で検討が始まっていると聞いています。業務改善を進めてなんとか時間を作り出し、利用者のみなさまの生活の質の維持向上

に努め、時代の流れに取り残されず、みなさまに選んでいただけるなでしこであり続けられるように頑張っていきたいと思います。

(施設長:山川 紀子)



三重を着る、伝統と個性が織りなすファッションショー

～ 第50回日本重症心身障害学会学術集会 ～

11月22日(土)第50回日本重症心身障害学会学術集会の市民公開企画として、同会場で、「三重を着る、伝統と個性が織りなすファッションショー」が開催されました。この企画は、テーマにある三重県の伝統工芸品をファッションの一部に取り入れてオリジナルの衣装を作成し、県内にお住まいの重症心身障害児者のみなさんがモデルとなって、ステージ

に登場しました。なでしこからも4人の利用者さんがモデルを務めてくれました。

一人一人が、衣装のテーマもあり、オリジナリティあふれるファッションで登場し、スポットを浴びてステージウオークする姿は、キラキラと輝いていました。ステージ中央でポーズを決めると観客席からは声援が聞こえ、うちわを振りながらパワーを送っている光景

も、とても印象的でした。

企画運営は鈴鹿病院、三重病院、明和病院なでしこがタッグを組んで準備を進め、明野高校、飯南高校、白子高校の生徒の皆さんにもご協力いただき、成功する事ができました。関係者の皆様、本当にありがとうございました。

(保育主任:中西)



赤いケープに想いを込めて

～ 還暦おめでとうございます ～



6月18日(水)、みゆきさんの還暦のお祝いを行いました。多職種

の担当職員が協力し準備を進め、晴れ舞台の日を迎えました。

みゆきさんは、お母さんにきれいにお化粧をしてもらい、お母さんお手製の赤いケープを身につけ登場されました。

その後、みゆきさんの好きなデザートを模したケーキをプレゼントしたり、赤ちゃんの頃からの写真をまとめたスライドを披露したりと、会場は温かい雰囲気包ま

れました。みゆきさん、還暦を迎えられ本当におめでとうございます。これからも元気に毎日を過ごして下さいね。

(児童指導員：齋田)



通所

クッキング!

～ スイートポテト ～

今年の5月に、通所では利用者さんと一緒に、なでしこ中庭の花壇にさつま芋の苗を植えました。

梅雨、夏を経て11月にさつま芋を収穫する事ができました。利用者さんは、土の感触を楽しみながら茎を引っ張り、小さい芋や大きい芋とサイズは様々ですが、たくさんのさつま芋を収穫することができました。収穫したさつま芋を使って、スイートポテトを作りました。柔らかくなった芋を潰したり、型に絞っ

たりと皆さん笑顔で取り組んでくれました。オーブントースターで焼いている間には甘い香りがフロアに漂い、食欲を誘いました。「早く食べたいな」とウキウキしながら出来上がりを待ち、「チンッ!」と鳴ると…目の前に黄金色に焼けた

スイートポテト! みんなで美味しくいただきました。自分たちで育てたさつま芋を使ってクッキングを行い、「食」を考える機会にもなりました。

(看護主任：川崎)



家族の会バザー



10月29日(水)に、なでしこ家族の会主催の「なでしこ家族の会バザー」が行われました。今年は天候にも恵まれ、初めてなでしこの中庭で出品する事ができました。パン、柿、洋服、お米などたく

さんの品が並び、とても賑やかな雰囲気の中、ご家族さんとのやりとりで利用者の皆さんは素敵な笑顔を見せてくれました。風が心地良く、中庭でのイベントが新鮮で、部屋に戻ろうとすると「もっと散策をしたい」と要求するかのよう

に、表情で職員に伝えてくれました。家族の会のみなさん、職員、関係者の方のご協力のおかげで、今年も活気のあるバザーとなり、

利用者さんの喜んでいる姿が印象的なイベントとなりました。

(保育士：奥野)



七五三

9月25日(木)、なでしこ入所の3歳のお子さんが、七五三のお祝いに、近くの竹神社にご家族の方と出掛けました。素敵な衣装を着て、ご家族に抱っこしてもらいながら、御祈禱していただきました。ご家族とお子さんの大切な思い出の1ページになれば幸いです

す。これからも楽しい思い出をご家族の皆様とともに作っていけるよう、職員一同支援させていただきます。この度は、七五三を迎えることができ、誠にありがとうございます。

(児童指導員：別所)



デザートフェア

11月13日(木)になでしこ家族の会主催のデザートフェアが行われました。今年度も松阪市にある華王殿さんに、8種類のデザートを提供していただき、利用者さんが食べやすい形態で、視覚でも楽しめるよう工夫して作っていただきました。また、栄養課にも協力してもらい、しょうぱいメニューの柔らかいお好み焼きも提供していただきました。

前年度はCOVID-19感染症対策の為、利用者さんのみデザート

を楽しんでいただきましたが、今年度は利用者さんと一緒にご家族のみなさんにも食べていただくことができました。デザートを自ら選んだり、たくさんおかわりをしながらご家族、利用者さんみんなで食べることができ、普段は口から食べていない経管栄養の利用者さんも口から味わったり注入で香りも楽しん

でいただくことができました。

いつもと違う賑やかな雰囲気、職員も楽しい時間を過ごす事ができました。

(作業療法士：田村)



誰もが一緒に楽しく遊べる公園に

「インクルーシブな環境では、障害がない子は多様な立場の人を受け入れる経験ができる。障害がある子にとっても普通の社会にもまれる機会となり、嫌な事にも直面するかもしれないが、手助けしてくれる子に出会う。」

（『福祉ニュース障害福祉編 2025 年3号
京都新聞・夕刊』より一部抜粋）

福祉ニュースより「インクルーシブ公園」の記事を読み興味を持った。インクルーシブ公園とは、「公園を訪れる誰もが一緒に楽しく遊べる公園」という意味である。子どもにとって公園で遊ぶことは、大切な学びの機会であり、それは、呼吸器を必要とする医療的ケア児を含む重症心身障害児にとっても同じで、五感への刺激や心身のリフレッシュ、人との交流という面で大切な学びの場である。

記事には、インクルーシブ公園

は、車椅子でも遊びやすいよう遊具を工夫するハード面だけではなく、ソフト面も意識することが重要で、順番を守る事ができるよう絵カードを使用し公園でのルールをわかりやすくしたり、聴覚過敏の子どもが苦手な音のする遊具の配置場所を工夫するなど、障害の特性に応じた配慮も同時に行う必要性が述べられている。

なでしこの利用者さんとの外出を計画する時、車椅子で移動する時の段差やスペース、日陰の確保、吸引の休憩ができる場所はあるかなど、ハード面は事前に考えて計画を立てるが、今後はソフト面にも意識していきたい。例えば、他の人たちが呼吸器、吸引に驚かずに受け入れられるためにはどうすればよいか。案内表示や啓発を行うことはできないか。公園で、音楽、風、光などの感覚遊びを他の子

どもたちと一緒にできるよう工夫できないか、親同士が交流するイベントを開催することもソフト面のサポートの促進となるのではないかな。

このようにソフト面も同時に考えていくことにより、障害を持つ子どもも社会との接点を持ちやすくなり、障害への理解促進にも繋がるように感じる。障害の有無に関わらず、環境を整え、また、誰もが楽しく過ごせるような公園が増えてほしい。

（児童指導員：齋田）



皆様の善意のご寄付に心よりお礼申し上げます

令和7年7月から令和7年12月にかけて、個人の方々よりたくさんのご厚意を賜りましたので紹介いたします。ご寄付いただいた物資につきましては当施設にて大切に使用させていただきます。

■ 寄付していただきました



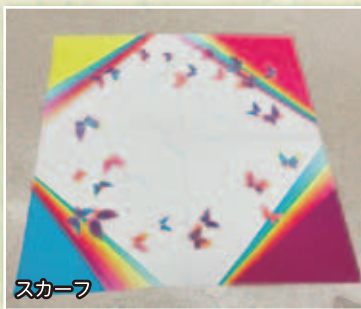
ガウン



ギター



フロムボード



スカーフ



ベビー

● 図書カード

職員一同心より感謝いたします。

◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ご寄付をお願いいたします ◆ ◆ ◆ ◆ ◆

当施設では、皆様からのご寄付を受け付けております。施設に賜りましたご寄付は当施設の利用者さんの日常がより充実したものになるよう職員一同大切に活用させていただきます。多くの皆様からのご支援を心よりお願い申し上げます。

※なでしこ通信の発行は3カ月に1回となります。 ※本誌に記入されている写真は本人または、家族の了承を得て使用しています。